

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100825		
法人名	株式会社 上毛福祉会		
事業所名	グループホーム さちね		
所在地	群馬県前橋市上細井町2015		
自己評価作成日	令和 4年 8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和 4年 9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの理念は、「家族」「心のケア」を重点に置き、明るく家庭的な雰囲気を心がけ、認知症等の疾患で思いどりにならないこと事がある中、心の支えになれる様 寄り添っていきたく思っております。環境面では、裏に保育園があり園児達の可愛い姿・声に、和む方も多いです。建物は木造で木のぬくもりを感じられ、大きな窓から中庭の様子で季節も感じられる造りとなっております。家庭菜園、花壇、外庭に桜の木々など、緑豊かな面は皆さんに喜ばれており、職員と共に楽しむことができ、心の安定が共に図れるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、理念に沿って、心のケアを大切にしながら利用者に寄り添い、家族のように関わることを意識し日々の支援にあたっている。家族には、利用者日々の様子が分かるよう行事などの際の写真にコメントを入れた「便り」を毎月送ったり、離れている家族との電話やはがきでのやりとりを手伝ったり、日々の様子を動画で送ったりして、関係が継続できるよう支援している。食事は、職員の手作りで、利用者の希望に応えたメニューにしたり、誕生日、季節の行事食などを提供したり、さらに、花見をしながら庭での食事を行うなど、食事が楽しくなるような工夫を行っている。また、環境を活かして外気浴をこまめに行い、中庭での野菜作りを利用者と一緒に行ったり、デッキでのお茶や庭にテーブルを出して食事を行ったりなど、コロナ禍でもなるべく外で過ごせるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を念頭に、全職員で心のケアを大切に その方にとっての望ましい暮らしとなれる様に努力している	職員は理念を共有し、利用者の表情を見ながら対面で話をよく聞き、それぞれの状態に合わせ、利用者の気持ちに添った支援が提供できるよう努めており、毎月の職員会議ではケアの振り返りをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の回覧板の一員としての繋がりがあ る。 地域の農作物を、定期的に頂き、ホームの食事に提供している。	自治会に加入し、回覧板で地域の情報を確認している。収穫した農作物を定期的に届けてくれる地域のボランティアグループと繋がりはあるが、事業所として地域との関わりは少ない状況である。	事業所の様子や情報を積極的に地域に発信するなど、事業所を理解してもらうための取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ前までは、運営推進会議で発信していたが現在コロナ渦により開催できておらず。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は、コロナ渦により開催できていない状況です。	自治会長、民生委員、市職員、家族が構成員となっているが、コロナ禍により、ここ2年以上開催できていない。	対面での開催は難しいが、それに代わるような方法で事業所の運営状況や取り組みになどについて構成員から意見をもらえるような取り組みを検討することに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	以前は運営推進会議で、行政の立場からのご意見を伺っておりましたが、現在は開催しておらず、電話での相談にとどまる。	市の担当課には運営推進会議の開催の相談に行ったり、利用者に関する諸手続のため出向いたりしている。地域包括支援センターとも事業所の空床状況についてのやりとりを行うなど、日頃から連携が図られるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉の拘束も含め、身体拘束をしないケアの共有認識を図っている。玄関の施錠は夜間以外行っておらず。門の施錠は昼夜問わず行っていない。	利用者それぞれの状態に応じて、例えば、転倒が心配される場合は一人介助から二人介助にするなど、なるべく拘束しないような対応を行っている。また、職員は言葉による拘束にも注意し、日々のケアにあたっている。	今後、身体拘束適正化委員会を設置し定期的に開催するなど、身体拘束等の適正化のための取り組みを進めることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体のおぼえ等の確認等、不適切なケアについて職員間で確認しあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会が無く、今後話し合いの場を設けていければと、思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等に関し、ご家族に説明しご理解・納得頂いている。改定の際、事前に口頭で説明してから書面でも、お伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者のご意見は日常の中で傾聴し、ご家族のご意見は気軽に話せる機会を設け、メール等のやり取りも行っている。	家族には利用料支払いの際などに意見や要望を聞いており、要望を受けて、感染防止に注意を払い短時間でも居室で話すことができる機会を設けている。利用者には、入浴の際など一対一になれる時に気持ちを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等、会議や個別でも話せる機会を設けている。	月1回の職員会議では、利用者の状態確認が行われ、ケアに関する検討も多くされているなかで、事業所行事や食事に関する提案がある。職員個々の意向は個別に受け、休暇に関しては希望に沿えるよう対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者からの報告により、職員に関する事や環境等を把握し、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍でもあり、人員の余裕も無い状況の為、現在取り組んでおらず、今後研修等に参加できる機会を設けて行ければと思います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人で研修会等に参加し、交流できる機会を増やし質の向上に繋がればと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に、ご要望等伺い寄り添いながら状態確認しながら、安心してサービスを受けていただけるよう、信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	メール等でも気軽に相談し、安心して頂けるような、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応に必要な支援をご相談の上、できるだけその思いにお応えできるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもあるご利用者様のアドバイスを頂き、生活の中で活かし、支え合って暮らしていけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍の中でも、大切な家族との面会は必要に応じ行ってきており、皆で支え合えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の中でも、ご相談があれば短時間でも心が和む時間が作れるよう努めている。	家族と一緒に過ごせる時間を大切に考え、感染防止策を講じ、居室面会ができるようにしている。利用者によっては遠方の家族との電話やはがきでのやりとりを支援し、ホームの生活の様子を動画で伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で状態観察しながら、気の合う人との共有スペースの居場所等、良い関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長年入居されていた方のご家族とは、季節の挨拶等 手紙やメール等で近況報告等のやり取りを させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で伝えられない方でも、日常生活の中で答えを見つけられるよう、職員間で話し合い 居心地の良い場となれるよう、努力している。	職員は、理念にある心のケアを踏まえ、利用者と一対一になれる入浴時や居室で、食べたいものややりたいことなど利用者の気持ちや意向をゆっくりと聴くよう努めており、それぞれに応じてなるべく応えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様にお話を伺い、日々の暮らしの中でも把握に努め、多くの情報が得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送りや会議等、職員間で把握し、望まれる生活となるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の状態等確認しながら、ご家族のご意向伺い、職員間で課題等話し合い、計画の見直しに繋げている。	計画作成担当者は日常的に介護業務も行っており、利用者一人ひとりの日々の状態を把握している。毎月の職員会議で、利用者の日々の状況が記された会議ノートを活用し、全員でモニタリングを行い、計画の見直しと作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の変化等を個別に記録し、職員間で共有し把握しながらケアを行ない、介護計画に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科・歯科往診・訪問サービスの散髪、ご要望に応じ取り組んでいる。内科・歯科以外の受診は必要に応じ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の民生委員の方やボランティアの方との交流があったが、コロナ禍の為現在は機会が無い状況である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科の協力して頂いている、主治医がいて、いつでも相談できる体制が整っている。	利用者全員が事業所の協力医をかかりつけ医にしており、月2回の往診の際には、利用者の状態を説明し、心配な点があればその都度相談している。また、訪問看護を受けられる体制もあり、必要があれば助言を受けている。歯科医による往診も月2回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護職の配置はないが、契約しているクリニックの訪問看護師に、いつでも相談できる体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	以前入院され際には、面会・電話で状態確認に努め 早期退院できるように、入院先の実主治医等と相談させて頂く。ホームの実主治医にも相談させて頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、入居の際に説明させて頂いている。その都度、その方の状態に応じ主治医・ご家族・ホーム側と話し合いをし、意向を確認しながら対応している。	看取りは基本的には行わないこととしているが、職員も家族の一員という思いで、家族の要望があれば主治医とも相談し行う場合もある。重度化した際の夜間対応は、職員の負担軽減を考え、管理者と一緒に付き添うなどしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを掲示し、緊急時に備え、会議で対応方法の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練を職員・ご利用者の方と行なっている。緊急時に地域の方の協力体制がある。	年2回、夜間想定も含めて避難訓練を実施している。立地条件もあり近隣住民の訓練への参加はないが、災害緊急時には運営推進会議で推薦された地域住民による災害ボランティアに協力してもらえる体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方にあった、お声がけをし 排泄や入浴介助等さりげない言動に注意するよう心がけ、対応している。	利用者への声掛けは、家族にも確認し男性は名字に女性は名前に「さん」を付けている。会話の中では、利用者がこれまで仕事などで頑張ってきたことを話題にするなど利用者の誇りを大切にして、これからも前向きに生活してもらえるよう支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉がけしてからの対応が基本であるが、その方のその時の状態に応じ対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いを大切にしながら、マイペースで、その方らしい暮らしができるように、努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問サービスでの散髪、ホームでの散髪・髪染め行ない 時には、化粧をし若々しくおしゃれを楽しんでいただけるよう、取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食等取り入れ、お手伝い可能な方には職員と作業して頂き、時には外での花見のランチも楽しむ。	和食中心の家庭的な料理を職員が交代で調理し、誕生日のケーキや季節に合わせた行事食なども提供しており、利用者には調理や後片付けなどできることを手伝ってもらっている。季節に応じて庭での食事やお茶なども楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、チェック表で確認しながら、情報共有し 支援している。 その方の嚥下力、好み等に応じ無理なく提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 その方に応じた 口腔ケアを行ない状態確認している。歯科往診受けている方のケアの指導もして頂き、口腔ケアについての学びも行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、個人の排泄パターンを把握し、その方のタイミングにあったトイレ誘導、声掛け行なっている。	排尿に関しては、早めに声かけをしている。排便に関して習慣を崩さないよう朝食後に長めに便座に座って、また、便秘予防のため十分な水分摂取と食事内容に配慮し、毎朝にヨーグルトを提供したり繊維質の多い食材を取り入れたりなど工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表での便間隔日数等の確認、便の状態も確認しながら、飲食の提供し、その方に合った対策を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週末は比較的面会等があり、お休みとし他の曜日は入浴できる体制としているが、職員の勤務状況やご利用者の方の状態により、時間帯等の制限はある。	週2回は入浴できるよう支援しており、入浴を拒むときは時間や日を変えている。体力が低下している利用者には、清拭や足浴、更衣などで対応している。入浴中は、職員が介助しながらゆっくりと会話をし、日々のケアの参考にしよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて、昼間静養して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で、個別の薬の確認ができるようになっている。チェック表で誤薬の防止、居宅療養管理サービスで相談できる体制がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中での、ご本人の好み等やご家族からの情報で、楽しみごと等見つけ出し、日々の支援に生かせるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の方の体力の低下や、コロナ禍の為、外出支援の取り組みが、数少ない状況である ホーム庭での外気浴で、気分転換を図っている。	6月にはバラ園に出掛けているが、コロナ禍であり外出の機会を多く設けるのは難しいので、少しでも外気にあたるよう、天気の良い日には中庭のデッキでのお茶や、庭にテーブルを出しての食事など、なるべく外で過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望があれば、立て替え等で支援できる体制可能である。お金の所持については希望が強い方のみ支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方のご家族から、定期的にお電話や、ハガキがきている方の支援や、ホームでの様子を動画等で送らせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い場となるよう心がけ、食堂の席は 状態に合わせた配置にし、玄関等季節の花や 節句人形を飾り 季節感を採り入れている。	廊下が回廊式で光が入り、施設全体が明るい雰囲気となっており、また、穏やかな雰囲気が感じられるようホールや玄関には花や鉢が多く飾られている。ホールでの席の配置は利用者同士話が合うように相性や自立度に合わせた配置にするなど、配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチ、和室等で気の合う方との、居場所の確保はできている。お一人になれる空間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物、布団や家具、写真等を、持ってきて頂き 安心して暮らせるよう、配慮している。	フローリングだけの居室と畳付きの居室があり、ベットは事業所で用意している。本人が安心して落ち着いて過ごせるよう、馴染みのものや使い慣れた家具などを持ち込んでもらっており、壁には家族の写真や本人が制作した塗り絵などが飾られている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・居室等に手すりの設置があり、歩行の安全確保をし、トイレの目印があり 場所の確認ができる。現状では自立困難な方が多くなっている。		